

EFI EXPRESS 4.5 の補足ガイド

本書は、EFI eXpress 4.1 のリリースより後に実装された主な変更点について説明します。ここでは、新規機能および改善機能について示し、さらに、ユーザ・インターフェースで再編された設定の詳細についても解説します。

システム要件

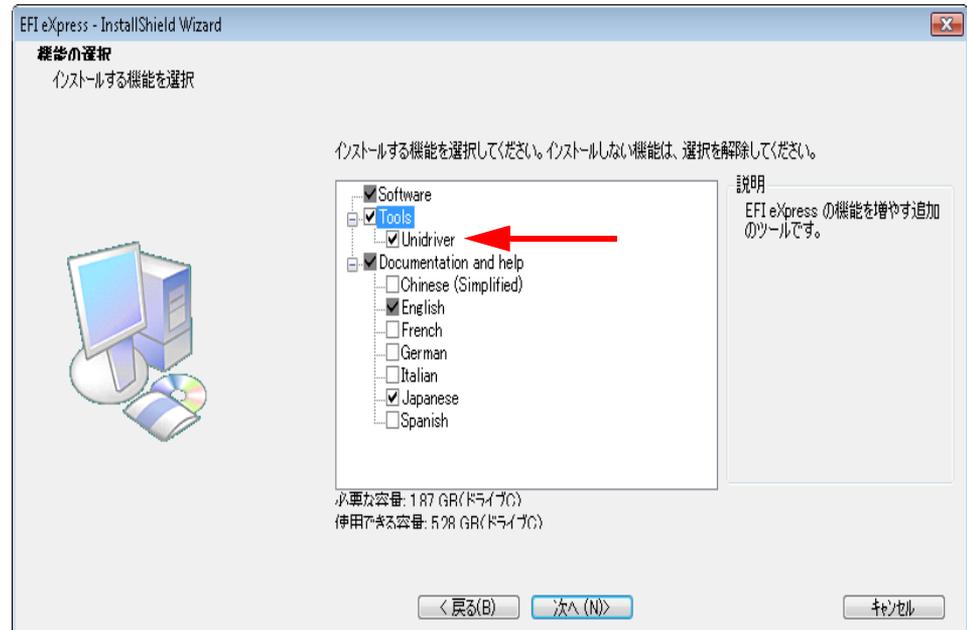
EFI eXpress 4.5 では、次のオペレーティング・システムをサポートします。

Windows	<ul style="list-style-type: none">• Windows XP• Windows 2003 Server• Windows 2008 R2• Windows 7
Macintosh	<ul style="list-style-type: none">• Mac OS X 10.6、および 10.7

インストール

Unidriver は、フルインストールの一部としてデフォルトでインストールされるようになりました。Unidriver をインストールしない場合、カスタム・インストールを実行して当該のチェック・ボックスを選択解除することができます。必要に応じて、後で DVD から Unidriver をインストールすることができます。

カスタム・インストール



コレクション

新しい設定または再編された設定

一部のコレクション設定は、この最新バージョンの EFI eXpress で再編されました。次の表に、現在のコレクション設定が存在する場所を示します。

オプション	EFI eXpress 4.1	EFI eXpress 4.5
コレクションのリフレッシュ	「ファイル」メニュー	「コレクション」メニュー
コレクションにジョブを追加	「ファイル」メニュー	「編集」メニュー
ジョブをコレクションから削除	「ファイル」メニュー	「編集」メニュー
新規シート	—	「コレクション」メニュー
シートを削除	—	「コレクション」メニュー

新しい「コレクション」メニューには、以下のコマンドがあります。

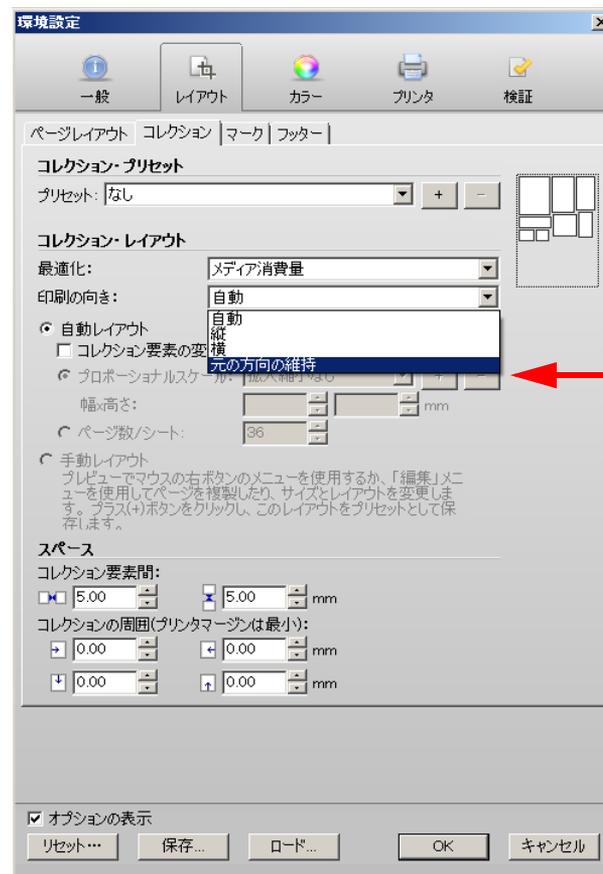
新規シート	既存の「コレクション」に新規にシートを追加します。
シートを削除	既存の「コレクション」から新規のシートを削除します。
更新	コレクションのプレビューを更新します。

ジョブの方向

これまで、明示的に「縦」または「横」を指定しなければ、コレクションに含まれるページは自動的に回転され、そうすることでメディア消費量が低減していました。EFI eXpress 4.5 では、新しい方向設定が追加されました。それは、ジョブの回転を抑制し、すべてのページが元の方向で出力されるという設定です。

「コレクション」ペインのドロップダウン・メニューから「元の方向の維持」を選択します。

「コレクション」ペイン



ジョブの複製

複製機能が拡張されました。以前のバージョンの EFI eXpress では、一度に 1 つのイメージのコピーしか作成することができませんでした。現在、作成する複製の数を指定できるようになっています。「複製」コマンドを選択すると、次のダイアログが開きます。

「複製イメージ」ダイアログ



必要な複製数を入力して「イメージを複製」をクリックします。個々の複製の拡大縮小など、特定のジョブの設定を実行できます。設定を行った後、プレビューを更新してコレクションのページを再配置します。ただし、個々の複製にカラー調整を行うことはできません。

イメージにコントロール・ストリップが割り当てられている場合、それもイメージとともに複製されます。ただし、一回だけ測定する必要があります。コントロール・ストリップを測定すると、その結果は自動的にすべての複製に転送されます。

名前の変更

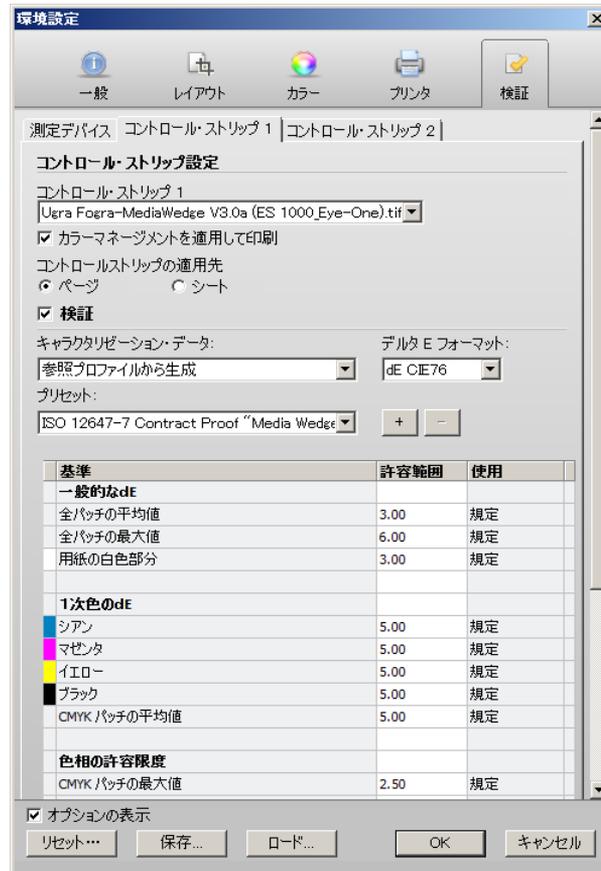
新しいコレクションが作成される際は常に「Collection」の後に連番の番号が付加された名前が付けられます。デフォルトの名前を上書きするには：

- ジョブ・リスト内のコレクションを右クリックし、コンテキスト・メニューから「名前の変更」を選択して、編集ボックスで一意的な名前を定義します。
- ジョブ・リスト内の選択したコレクションをダブルクリックして、編集ボックスで一意的な名前を定義します。

コントロール・ストリップ

コントロール・ストリップは、「検証」タブに配置されるようになりました。

「コントロール・ストリップ」
ペイン



この最新バージョンのプログラムでは、2つのコントロール・ストリップを使用することができます。そのため、コレクションで作業する際に、柔軟性が高まります。

- コントロール・ストリップ

ドロップダウン・メニューからコントロール・ストリップを選択します。



ドロップダウン・メニューには、選択された測定デバイス用のコントロール・ストリップのみが表示されます。デフォルトの測定デバイスは、ES-1000 です。異なる測定デバイスを使用している場合、まず「環境設定」ダイアログの「検証」タブの「測定デバイス」ペインでそれを選択する必要があります。

- カラー・マネージメントを適用して印刷

コントロール・ストリップにカラー・マネージメントを適用しない場合は、チェック・ボックスの選択を解除してください。

• コントロール・ストリップの適用先

単一のジョブにコントロール・ストリップを出力するには、「ページ」を選択してください。コレクションにコントロール・ストリップを出力するには、「シート」を選択してください。コレクションで2つのコントロール・ストリップの使用方法を組み合わせると、一方は各コレクション内のジョブ（ページ）、他方は全体としてのコレクション（シート）に出力することができます。



複数ページのジョブの場合、コントロール・ストリップはすべてのページに適用されます。それぞれのページに異なるコントロール・ストリップを選択することはできません。

- コントロール・ストリップ
- 1 コレクションに含まれるページ
 - 2 コレクション・シート



Color Verifier ウィザード

EFI eXpress 4.5 の新機能に、ジョブのカラーの一貫性を検証するための特別なツールがあります。



Color Verifier ウィザードには、個別のライセンスが必要です。EFI eXpress ライセンスがインストールされていない場合、「環境設定」ダイアログの「一般」ペインで製品のタイプに「EFI eXpress for Proofing」を選択できます。これにより、以降のセクションで説明されている機能が使用できるようになります。ただし、出力には demo というスタンプが表示されます。出力からデモ・スタンプを削除するには、EFI eXpress for Advanced Proofing のライセンスを購入して、Color Verifier ウィザードを引き続き使用できるようにする必要があります。

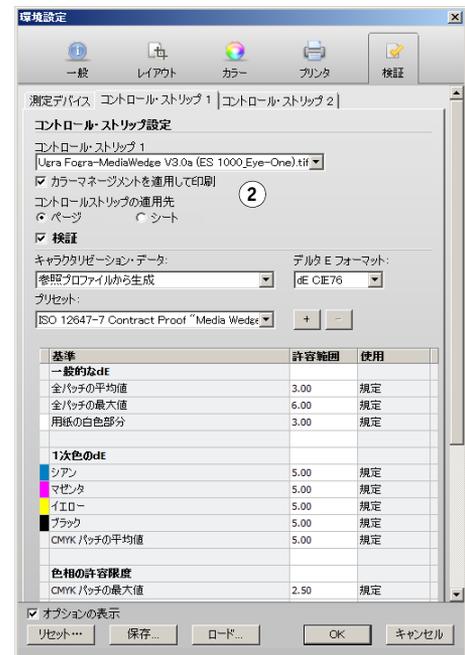
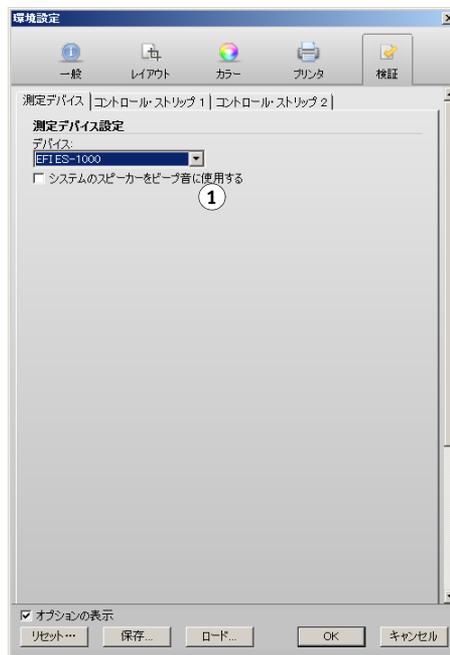
検証ワークフローの役割

「許容範囲」の値により、リファレンスに対する出力の色精度を検証する際の最大許容誤差を定義します。例えば、平均デルタ E の値が 3 に定義されているときに、デルタ E 測定値が 2.5 であった場合、色精度として受け入れられ、「合格」の結果が生成されます。一方、デルタ E 測定値が 3.2 の場合は「不合格」の結果が生成されます。

「検証」設定は、「検証」タブにあります。ここで、測定デバイスを選択し、許容値を定義します。

「検証」タブ

- 1 「測定デバイス」ペイン（「環境設定」ダイアログのみ）
- 2 「コントロール・ストリップ 1/2」ペイン



検証ワークフローを設定するには

この手順では、検証ワークフローの設定に必要な手順について説明します。ただし、個々の設定については説明しません。個々の設定の詳細については、9頁の「[必要に応じた設定](#)」を参照してください。

- 1 「環境設定」ダイアログの「検証」タブを開きます。
- 2 「測定デバイス」ペインで、測定デバイスを選択します。



この設定は、フィルタの働きをしています。選択された測定デバイスで使用できるコントロール・ストリップおよびメディア・ウェッジのみが表示されます。デフォルトの測定デバイスは、ES-1000 です。

- 3 「コントロール・ストリップ」ペインで、次の処理を実行します。

- カラーの一貫性のチェックに使用するコントロール・ストリップまたはメディア・ウェッジを選択します。
- 「検証」チェック・ボックスを選択します。

「環境設定」ダイアログでこの設定を行うと、すべてのジョブが「検証」ジョブとして扱われることとなります。すべてのジョブの色精度を検証する必要はない場合は、このチェック・ボックスを未選択のままにします。EFI eXpress にロードされた個々のジョブを検証するには、「プロパティ・インスペクタ」の「検証」チェック・ボックスを選択します。

- 「キャラクターゼーション・データ」ドロップダウン・メニューから、ターゲット・カラー値を表すリファレンスを選択します。
- 「dE フォーマット」メニューから、デルタ E の計算方法を選択します。「dE CIE 76」、「dE 94」、「dE 2000 or dE CMC」から選択します。
- 「プリセット」ドロップダウン・メニューから、許容範囲を指定します。
- 必要に応じて、「検証後に自動的にラベルを印刷」を選択します。

この設定は、測定デバイスが統合されたプリンタのみで提供されています。ラベルには、ISO 12647-7/8 仕様に準拠した必要な情報がすべて含まれています。このオプションを選択すると、比較結果の内容にかかわらず常に印刷するように設定することができます。一方、すべての測定結果が定義した許容範囲内である場合にのみラベルを印刷するように設定するには、「検証結果が合格した場合にのみ印刷」チェック・ボックスを選択します。



Fogra Proof Certification の認証を取得するために、あるいは ISO 12647-7 仕様に準拠したプルーフを作成するには、「フッター」ペインでジョブ・チケットを選択する必要があります。ジョブ・チケットには、次の情報が含まれている必要があります。

- プルーフィングに使用したソフトウェア名
- 着色剤
- 印刷メディアの種類
- シミュレートする印刷環境

- 使用したカラープロファイル
- 出力日時

この目的のために、ジョブ・チケット「ISO compliant (12647-7/8)」が提供されています。

必要に応じた設定

コントロール・ストリップ

最終的な目的に応じて、コントロール・ストリップを選択します。Color Verifier オプションを使用して、次の処理を実行できます。

- Fogra Proof Certification 認証の取得
- ISO 12647-7 に準拠したプルーフの作成
- リモート・サイトで作成された EFI Remote Container (RPF ファイル) からのカラーの正確さを維持したコピーの出力

次の表は、各種リファレンスに最適なコントロール・ストリップを示します。

コントロール・ストリップのタイプ	リファレンスのターゲット・カラー		
	リファレンス・プロファイル	SWOP/GRACoL	Fogra キャラクターリゼーション・データ
EFI Color Verifier チャート	Yes	No	No
IDEAlliance ISO 12647-7	Yes	Yes	No
Ugra Fogra メディア・ウェッジ	Yes	No	Yes

キャラクターリゼーション・データ

この設定では、リファレンス (出力のターゲット・カラー) を定義します。次の設定を使用できます。

- 参照プロファイルから生成

この設定を使用して、リファレンス・プロファイルで得られるカラーに対するカラー出力を測定します。選択したリファレンス・プロファイルに適切な Fogra キャラクターリゼーション・データを選択します。次の表では、どのリファレンス・プロファイルに対してどのキャラクターリゼーション・データを使用すべきかを示しています。

リファレンス・プロファイル	Fogra キャラクターリゼーション・データ
ISOcoated.icc	Fogra 27
ISOwebcoated.icc	Fogra 28
ISOuncoated.icc	Fogra 29

リファレンス・プロファイル	Fogra キャラクターリゼーション・データ
ISOuncoatedyellowish.icc	Fogra 30
ISOcofcoated.icc	Fogra 31
ISOcofuncoated.icc	Fogra 32
ISOcoated_v2_eci.icc/ ISOcoated_v2_300_eci.icc	Fogra 39
SC_paper_eci.icc	Fogra 40
PSO_MFC_paper_eci.icc	Fogra 41
PSO_SNP_paper_eci.icc	Fogra 42
PSO_Coated_NPscreen_ ISO12647_eci.icc	Fogra 43
PSO_Uncoated_NPscreen_ ISO12647_eci.icc	Fogra 44
PSO_LWC_Improved_eci.icc	Fogra 45
PSO_LWC_Standard_eci.icc	Fogra 46
PSO_Uncoated_ISO12647_ eci.icc	Fogra 47
PSR_LWC_PLUS_V2_PT.icc	PSR_LWC_PLUS_V2
PSR_LWC_STD_V2_PT.icc	PSR_LWC_STD_V2
PSRgravureMF.icc	PSRgravureMF
PSR_SC_STD_V2_PT.icc	PSR_SC_STD_V2
ISOnewspaper26v4.icc	IFRA26
PaC.Space_CMYK_gravure_ V1a.icc	PaC.Space
GRACoL_2006_Coated1v2.icc	GRACoLCoated1_ISO12647-7_ ControlStrip2009_Ref
SWOP2006_Coated3v2.icc	SWOPCoated3_ISO12647-7_ControlStrip2009_Ref
SWOP2006_Coated5v2.icc	SWOPCoated5_ISO12647-7_ControlStrip2009_Ref

このリストは、ソフトウェアとともに定期的に更新されます。最新情報については、EFI\EFI eXpress\Modules\IT8_CharacterizationDataにある readme ファイルを参照してください。

- Fogra キャラクターリゼーション・データ

Ugra/Fogra メディア・ウェッジでは、Fogra キャラクターリゼーション・データのセットを選択して、標準印刷環境を定義できます。詳細については、Fogra の Web サイトを参照してください。

また、EFI XF で作成され、EFI Remote Container (RPF ファイル) として保存されたジョブのカラー出力を検証することもできます。RPF ジョブをロードすると、EFI XF の最初の検証測定値が Color Verifier ウィザードのカラー比較のベースとして使用されます。プロパティ・インスペクタのキャラクタリゼーション・データ設定には、「測定ファイルを開く」が表示されます。Remote Container に測定ファイルがない場合、代わりにリファレンス・ファイルが自動的に使用されます。



RPF ジョブが EFI XF のダイナミック・ウェッジで作成された場合、一般的なメディア・ウェッジが EFI eXpress のプレビューに表示されます。ただし、ダイナミック・ウェッジからの実際のカラーは Color Verifier ウィザードに送信されて測定されます。

プリセット

キャラクタリゼーション・データの種類を選択した後に、「合格」の結果を規定する許容範囲の量を指定する必要があります。許容範囲は、リファレンスからの偏差量に相当します。

さまざまな印刷条件（プリンタ、インク、メディアなど）があり、2つの異なる出力デバイスで 100% 同一の印刷結果を得ることは一般的には不可能であるため、ある程度の偏差量はほぼ避けられません。

既定のターゲット許容範囲のセット、またはユーザ定義のターゲット許容範囲を選択することができます。

- 定義されたプリセット

標準仕様の定義されたプリセットを使用できます。それらの値は、通常のプルーフの作成 (ISO 12647-7 または 12647-8 に準拠したメディア・ウェッジに基づく検証) に適用できます。または、FograCert のような認証の目的で適用できます。

定義されたプリセット	用途:
ISO 12647-7 Contract Proof “Media Wedge”	ISO 12647-7 (contract proofing)
ISO 12647-8 Validation Print “Media Wedge” NWIP	ISO 12647-8 (FograCert validation printing)
ISO 12647-8 Validation Print “Media Wedge” CD2	「ISO 12647-8 Validation Print “Media Wedge” NWIP」プリセットは、Fogra が Cert Validation Print Certification に使用していた許容制限値を適用します。 この標準は、ISO 12647-8 Validation Print “Media Wedge” CD2 に置き換えられました。この許容制限値はプレスの段階で使用されており、ISO 12647-8 のリリース・バージョン用に定義される許容制限値となる見込みです。
G7 Contract Proof “Media Wedge”	G7 仕様に準拠したプルーフの検証ジョブ



デルタ T 許容制限値は、100% シアン、または 50% マゼンタなど 1 次色のみで測定することができます。CMYK が混ざったカラーのデルタ T 許容制限値を計算することはできません。

- カスタム

独自の許容制限値を定義し、それをカスタム・プリセットとして保存することができます。「許容範囲」列に表示される値は編集できます。カスタム・プリセットを使用することによって、最新の既定値やユーザーの各サイトでの指定値を簡単に保存しておくことができます。

また、それぞれの許容値に「規定」または「参考」特性を割り当てることができます。設定を変更するには、「使用方法」列の適切なセルをクリックして、ドロップダウン・メニューを開きます。この設定はジョブの検証結果に影響を与えます。

規定	規定値が評価されます。測定値のいずれかが指定された許容範囲を超えている場合は、Color Verifier 測定結果が適切でなく、ジョブの検証が不合格になることを知らせるメッセージが表示されます。
参考	参考値が評価されます。参考値は参照用のみで、ジョブが検証に合格するか不合格になるかには影響を及ぼしません。ジョブ検証には規定値のみが考慮されます。すなわち、参考値が定義された許容範囲外にある場合でも、ジョブの評価を行うことができます。
オフ	このオプションを選択すると、許容制限値は評価されず検証結果にも含まれません。

必要許容制限値を定義し、「保存」をクリックして一意の名前を付けます。

色精度の検証

検証ワークフローを作成したら、EFI eXpress でロードするジョブの色精度を検証できます。



プリンタに組み込まれた測定デバイスを使用している場合、カラー・パッチはプリンタで自動的に測定されます。以下の手順を実行する必要はありません。測定後に、結果は「検証済み」または「検証に失敗」というステータスとともに EFI eXpress に自動的に返送されます。詳細については、18 頁の「[結果の分析](#)」を参照してください。

補助測定デバイスによりジョブのカラーの一貫性を検証するには

- 1 ジョブを印刷します。

印刷後に、ジョブ・ステータスは「検証可能」に変わります。

- 2 ジョブ・リスト内でジョブを強調表示します。プロパティ・インスペクタで、「コントロール・ストリップ」ペインを開き、「検証」ボタンをクリックします。

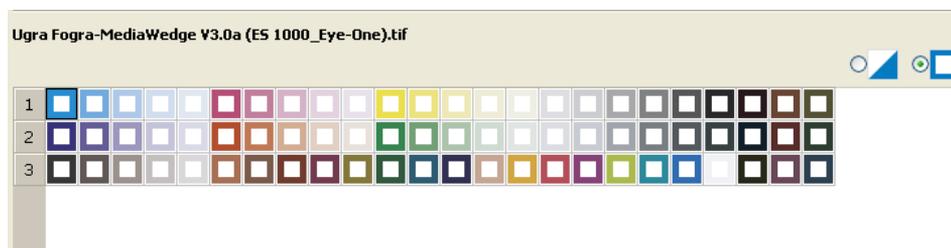
Color Verifier ウィザードが開始されます。

Color Verifier ウィザード：
最初の画面



次の2つの表示モードがあります。「並べて表示」と「重ねて表示」です。表示モードを変更するには、適切なラジオ・ボタンを選択します。

Color Verifier ウィザード：
タイル・モード



- 3 測定デバイスが正しく接続されていることを確認します。

- 4 「測定」をクリックし、画面の指示に従って出力結果のコントロール・ストリップを測定します。

Color Verifier ウィザード：
測定されたパッチを含む最初の画面



- 5 2つのコントロール・ストリップを印刷した場合、ウィンドウの右上にある「測定ストリップ2」ボタンをクリックして、引き続き2つ目のコントロール・ストリップを測定します。そうでなければ、次の手順に進みます。

6 ウィンドウの右上にある >> をクリックして結果を表示します。

Color Verifier ウィザード：
結果画面



結果が「合格」であれば、測定したコントロール・ストリップのカラーが定義されている許容範囲内であったこととなります。「不合格」であれば、一部が定義されている許容範囲を超えていたこととなります。

「詳細結果」をクリックすると、より詳細な結果を表示できます。詳細表示では、定義されている許容範囲と測定結果を比較します。

適切なボタンをクリックすると、結果のラベルやレポートを印刷できます。

Color Verifier ウィザード： 結果画面

- 1 ラベル
- 2 レポート



①



②

ラベルで「承認者」を編集して、出力結果の色精度を承認したユーザの名前を挿入できます。

- 7 ウィンドウの右上にある「終了 >>」をクリックします。
- 8 結果を保存するかどうか入力を求められたら、それを確定します。

ジョブは「検証済み」または「検証に失敗」というステータスとともに EFI eXpress に返送されます。

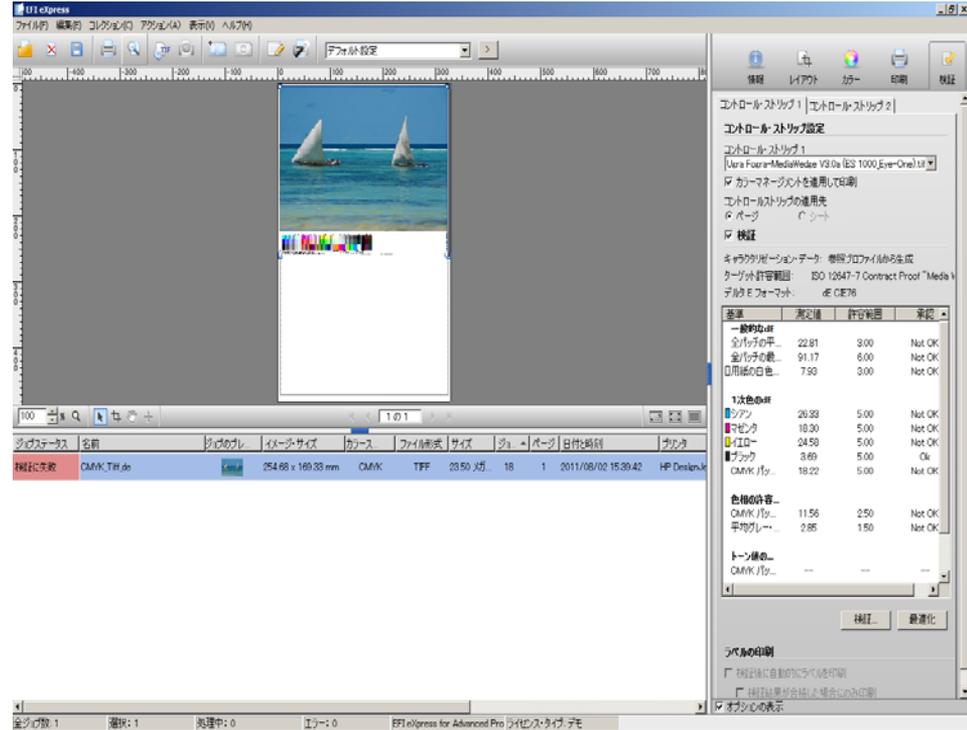


結果を保存しない場合、EFI eXpress に送信されず、ジョブ・リストに表示されるジョブ・ステータスは「検証可能」のままになります。

結果の分析

結果が EFI eXpress に返送されると、ジョブ・ステータスは「検証済み」または「検証失敗」に変わり、実行結果が「検証」タブに表示されます。

EFI eXpress に返送された結果



ジョブのステータスが「検証失敗」の場合は、ジョブによっては最適化を行うことによって許容範囲にすることができます。最適化を行うには、「コントロール・ストリップ」ペインで「最適化」をクリックします。すると、リファレンス・プロファイルのカラー・ガモットに最適な補正プロファイルを作成することで、ジョブのカラー・マネージメントが最適化されます。その後で、ジョブを再印刷して検証手順を繰り返す必要があります。

一度に1つのコントロール・ストリップのみを最適化できます。ジョブに2つのコントロール・ストリップが含まれており、両方とも最適化する場合は、2つ目のコントロール・ストリップの「最適化」ボタンを再度アクティブにするために、印刷と検証の手順を繰り返す必要があります。



CMYK カラー・スペースのジョブのみを最適化できます。ただし、以下の設定のいずれかが適用されている場合、最適化することはできません。

- 知覚または彩度レンダリング・インテント設定
- カラー調整

ジョブの拡大縮小

「ページ・レイアウト」ペインの拡大縮小設定において、以下の機能拡張が行われました。

- 拡大縮小設定は、2つのドロップダウン・メニューに別れて配置され、よりわかりやすくなりました。最初のメニューには、拡大縮小の種類が含まれます。2つ目には、選択した拡大縮小の種類に関連するプリセット（デフォルトおよびカスタム）が含まれます。パーセンテージおよび数値での拡大縮小のプリセットのみを使用できます。
- 「パーセンテージで拡大 / 縮小する」および「数値で拡大 / 縮小する」設定は、縦横比を変えて行うことができるようになりました。
 - プロポーションナル・スケールの場合：チェーン・ボタンが選択されていることを確認します。イメージの幅または長さを指定できます。他方の値は自動的に変更されます。
 - プロポーションナル・スケールでない場合：チェーン・ボタンが選択解除されていることを確認します。イメージの幅と長さの両方を指定できます。

環境設定の各設定の適用

この製品の最新バージョンでは、新たにさまざまな環境設定の各設定のセットを容易に素早く選択できるようになりました。環境設定のセットが EPF ファイルとして保存されていれば、ツールバーのドロップダウン・メニューからそれを選択できます。

環境設定の選択



EPF ファイルを選択すると、これは以降にロードするすべてのジョブの新しいデフォルトになります。

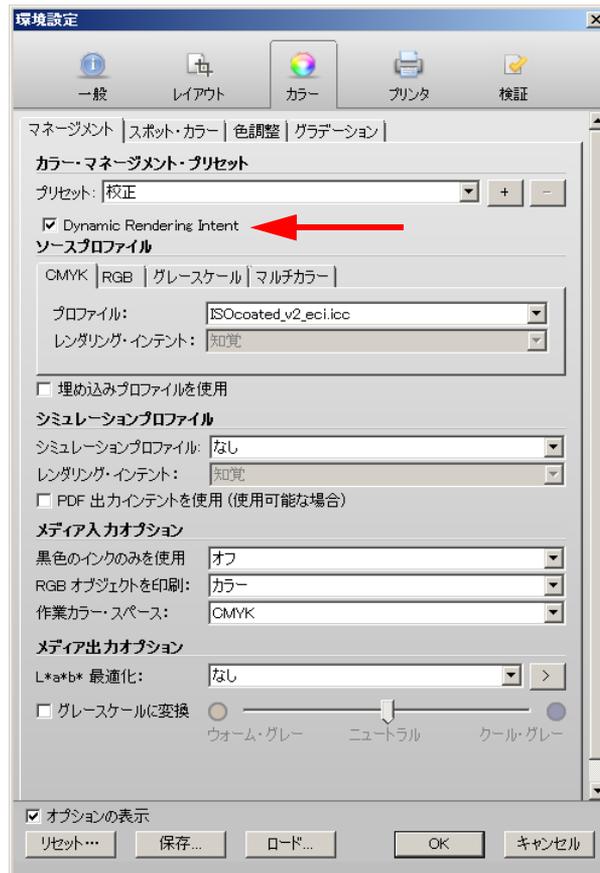
デフォルトでは、EPF ファイルは「環境設定」フォルダに保存されます。ドロップダウン・メニューの横にある右矢印 (>) ボタンをクリックすると、「環境設定」フォルダが開き、ここでファイルを削除したり、ファイルの名前を変更したりすることができます。

カラー・マネージメント

「全範囲」設定は、「ダイナミック・レンダリング・インテント」に置き換えられました。これは、次の場所で選択できます。

- 設定ウィザード / アシスタントの「カラー・マネージメント」ダイアログ
- プロパティ・インスペクタの「カラー」ペイン
- 「環境設定」ダイアログの「カラー」ペイン

「マネージメント」ペイン



この設定を用いて、EFI eXpress はジョブのカラーを分析し、選択された出力デバイスで正確にカラーが再現されるかどうかを判断します。この分析に基づいて、最も正確なレンダリング・インテントが自動的に選択されます。

ジョブのカラー分析	レンダリング・インテント	説明
すべてのカラーが出力デバイスの再現可能なガモットの範囲内	相対カラー・メトリック	このレンダリング・インテントは、ジョブのカラーを正確に再現し、ガモットの圧縮は必要です。
特定のカラーが出力デバイスの再現可能なガモットの範囲外	知覚	JPEG, TIFF, PSD: 選択されたソースプロファイルが使用されます。

シミュレーション・プロファイルは、ソース・プロファイルより優先されます。シミュレーション・プロファイルがジョブに割り当てられている場合、そのシミュレーション・プロファイルのレンダリング・インテントのみがこの設定によって影響を受けます。利用できるシミュレーション・プロファイルがない場合は、ソース・プロファイルのレンダリング・インテントが選択されます。

ダイナミック・レンダリング・インテント設定がプロパティ・インスペクタで適用された場合、「保存」をクリックすると、最適なレンダリング・インテントが選択されます。



ワークフローでジョブのプレビュー設定が有効になっているかどうかにかかわらず、ジョブのプレビューが常に作成されます。

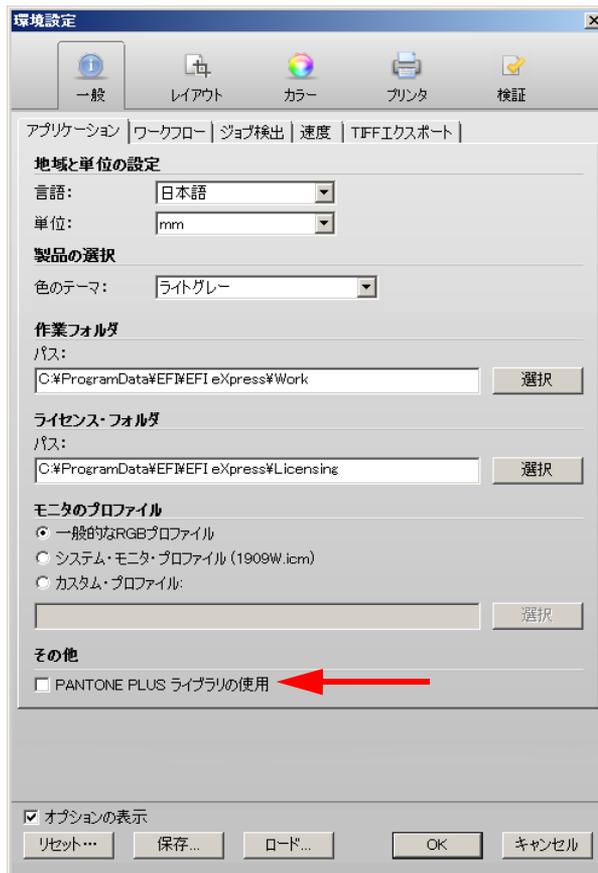
PANTONE のサポート

PANTONE PLUS® スポット・カラー・ライブラリ

EFI eXpress for Proofing では、標準の内部 PANTONE スポット・カラー・テーブルの使用から PANTONE PLUS® (最新のメタリック、パステル、ネオン・カラーを含む新しいスポット・カラー・ライブラリ) に切り替えることができます。そのように選択すると、PANTONE PLUS カラー・ライブラリは、EFI eXpress のすべての PANTONE スポット・カラー定義に適用されます。

この設定は、「環境設定」ダイアログの「アプリケーション」ペインにあります。このチェック・ボックスを選択すると、新しい一連の PANTONE PLUS のカラーを使用して作成された印刷ジョブを出力します。新しいスポット・カラー・ライブラリを有効にするには、EFI eXpress を再起動する必要があります。

「アプリケーション」ペイン



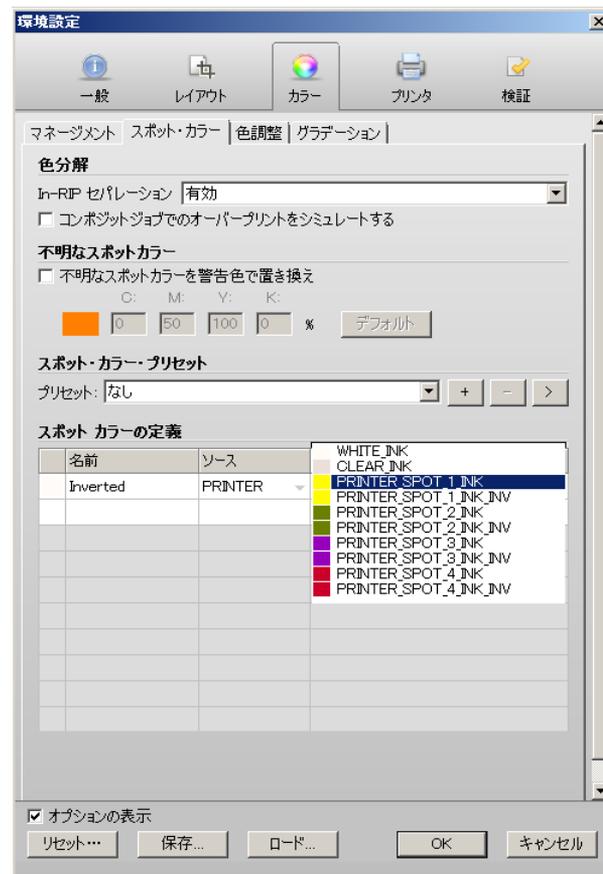
PANTONE FASHION + HOME スポット・カラー・ライブラリ

EFI eXpress 4.5 では、PANTONE の FASHION + HOME パレットをサポートしていません。新しいカラーは、EFI eXpress の標準的な内部 PANTONE スポット・カラー・ライブラリに含まれます。

スポット・カラーを使用したカラー印刷媒体への出力のシミュレーション

プリンタがクリアや白色などの追加インクをサポートしている場合、インク・ソースとして「PRINTER」を選択できます。「PRINTER」を選択することにより、ジョブの処理にはカラー・マネージメントでの設定はバイパスされ、プリンタのインクが使用されます。この EFI eXpress の最新バージョンでは、この機能が拡張され、プリンタのインクを「反転」設定にマップできるようになりました。

「スポット・カラー」ペイン



「反転」プリンタ・インクは、その名前 (Inverted) から「INV」という文字で認識できます。反転設定を選択した場合、反転した割合の量のインクが適用されます。つまり、100% インクには 0% カラー、0% インクには 100% カラー、30% インクには 70% カラーが適用されます。このように、スポット・カラーを使用して、白色またはカラー印刷媒体で最終プロダクション工程をシミュレートすることができます。

この設定は、金色または銀色のメタリック・カラーが多く使用される包装産業で有用です。ただし、一部の特殊効果は、プリンタが適切なインクのカラーをサポートしている場合のみに正しく実行できます。

RGB Profile Connector

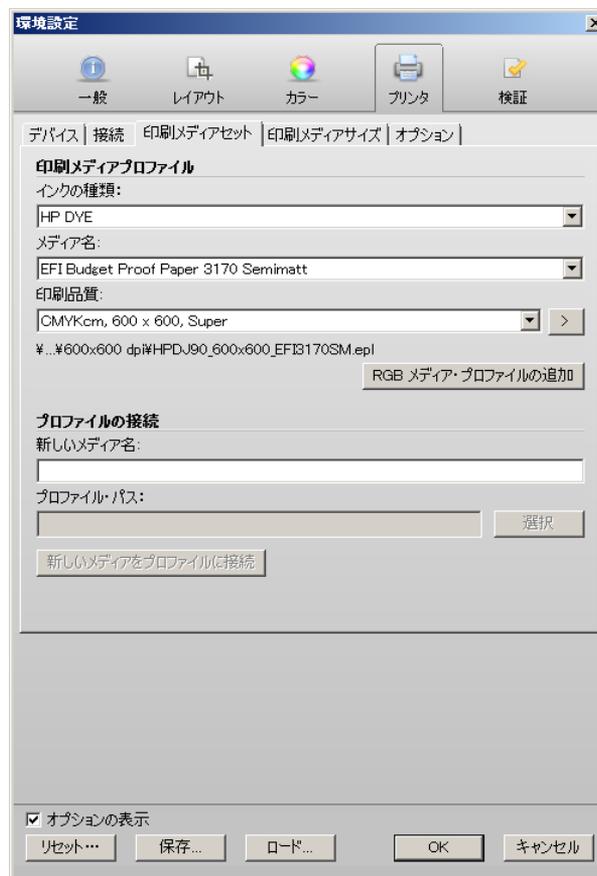
RGB Profile Connector を使用すると、プリンタ・メーカーや用紙メーカーから提供される RGB メディア・プロファイルを使用できるようになります。EFI eXpress ではデフォルトで RGB Profile Connector がインストールされます。

EFI EXPRESS で使用するためのカスタム RGB メディア・プロファイルを作成するには

1 次のいずれかを行います。

- 「プリンタ」タブで、「メディア・セット」ペインを開き、「RGB メディア・プロファイルの追加」をクリックします。

「メディア・セット」ペイン



- 「アクション」メニューから「EFI RGB Profile Connector」を選択します。
「EFI RGB Profile Connector」ダイアログが開きます。

「EFI RGB Profile Connector」 ダイアログ



- 2 「プリンタ名」ドロップダウン・リストから RGB プリンタモデルを選択し、「インクの種類」から使用するインクを選択します。
- 3 「印刷メディア・タイプ」から、使用する RGB メディア・プロファイルに最も適した印刷メディアを選択します。

通常、印刷メディア・タイプ情報は、用紙メーカーからプロファイルとは別ファイルで提供されます。

- 4 印刷メディアに名前を付けます。

デフォルトでは、メディア名はメディア・タイプと同じものが付けられています。その名前をそのまま使用してもかまいませんし、新しい名前をつけることもできます。ここで指定した名前は、後に EFI eXpress で使用可能なメディア・プロファイルとして選択可能になります。

- 5 「解像度」、「印刷モード」、「印刷方向」ドロップダウン・リストから、RGB メディア・プロファイルに適したものを選択します。

これらの情報は、用紙プロファイルと一緒に提供されているものを使用するか、または Web サイトから入手します。

- 6 「選択」をクリックしてカスタム RGB メディア・プロファイルを検索し、選択してください。
- 7 「インストール」をクリックします。

新しい RGB メディア・プロファイルが「EFI Media Profiles¥Profiles」フォルダにコピーされます。EFI eXpress に適用するには、「印刷」タブ>「メディア・セット」ペインに移動し、定義したメディア名をドロップダウン・メニューから選択します。

印刷コマンド

EFI eXpress 4.5 では、次の 2 つの新しい設定を使用して、印刷するページ範囲とコピー枚数を定義できます。

- 「ファイル」メニューで、「印刷設定」を選択します。
- ジョブ・リストで当該のジョブを右クリックし、内容メニューから「印刷設定」を選択します。

仮想プリンタとしての EFI eXpress の設定

このセクションでは、次の構成で TCP/IP または SMB 印刷に必要な追加設定について説明します。

EFI eXpress がインストールされている OS:	Mac OS X 10.5 以降
グラフィック・アプリケーションがインストールされている OS:	Windows XP または Windows 7

この構成では、2 つのコンピュータが異なるサブネットに配置されていると問題が発生する場合があります。グラフィック・アプリケーションで仮想プリンタを選択することはできますが、EFI eXpress でジョブはロードされません。

この問題を解決するには、CUPS バージョン 1.4.4 以降で設定を行う必要があります。OS X 10.6.4 以降が稼働するすべての Macintosh コンピュータでは、デフォルトでバージョン 1.4.4 がインストールされます。

古いバージョンの CUPS では、この問題を解決できないので注意してください。

ネットワークサブネットを横断して印刷するには

- 1 Macintosh コンピュータで Web ブラウザを起動して、アドレスに「<http://localhost:631/admin>」と入力します。

「管理」タブに「Common UNIX Printing System」ウィンドウが開きます。

- 2 「サーバ設定」の下で、チェック・ボックス「インターネットからの印刷を許可する」を選択します。

「CUPS 管理」 ペイン



- 3 「設定の変更」 ボタンをクリックします。